

建築分野における BIM の標準ワークフローとその活用方策に関するガイドライン 第 2 版／第3版 目次構成(素案)の比較

第2版目次構成		第3版目次構成(素案)
1. はじめに		1. はじめに
1-1. ガイドライン改定について		1-1. 建築 BIM を取り巻く動向
1-1-1.改定の経緯と変更点		1-1-1.建築 BIM を取り巻く国内の動向
1-1-2.充実・変更事項		1-1-2.国際的な建築 BIM 活用の流れ
1-2. 背景・経緯		1-2. BIM 活用の意義・メリット
1-3. 趣旨		1-2-1.建築 BIM 活用の現状と課題
1-4. 目的・対象		1-2-2.効率的な BIM 活用のスタンス
1-4-1.ガイドラインの目的について		1-2-3.建築 BIM がもたらす社会的インパクト
1-4-2.ガイドラインの対象について		1-3. 本ガイドラインの目的・改定経緯
1-5. 用語の定義		1-3-1. 建築 BIM ガイドラインの目的・対象
1-6. BIM 活用の意義・メリット		1-3-2. 建築 BIM ガイドラインの改定経緯
1-6-1. BIM 活用の現状 ープロセスごとの個別 BIM 活用		1-3-3. 建築 BIM ガイドライン第3版の改定ポイント
1-6-2.プロセス横断型の BIM 活用		1-4. 用語の定義
1-6-3.ライフサイクルマネジメントの視点からの BIM 活用		-
1-6-4. 発注者、所有者などにとっての BIM 活用		(2-3.にて)
2. BIM の標準ワークフローについて		2. BIM の標準ワークフローについて
2-1. 業務区分(ステージ)の考え方		2-1.業務区分(ステージ)の考え方
2-1-1.情報の管理と業務区分(ステージ)の設定		2-1-1.建築 BIM 活用を進めるための業務区分(ステージ)
2-1-2.業務区分とそれぞれの成果物について		2-1-2.8つの業務区分(ステージ)のポイントとその担い手
2-1-3.8つの業務区分(ステージ)と、従来のワークフローの業務区分との変更点		-
2-1-4.業務区分を従来から見直すメリット		-
2-2. 標準ワークフローを構成する業務とその担い手について		-
2-2-1.標準ワークフローを構成する業務について		-
2-2-2.ライフサイクルコンサルティング業務について		(2-3.にて)
2-2-3.施工技術コンサルティング業務について		「技術協力」という言葉に置き換え、「2-1-2.」に統合
2-2-4.維持管理・運用 BIM 作成業務について		(2-3.にて)
2-3. 標準ワークフローのパターンについて		2-2. 標準ワークフローについて
2-3-1.標準ワークフローのパターンについて		2-2-1.標準ワークフローについて (設計・施工分離型を例示しワークフローを詳細化)
2-3-2.ワークフローの選択の視点について		2-2-2.パターンの特徴について
2-3-3.ワークフローの選択と発注方式の親和性について		-
		2-3. BIM活用における発注者の役割とメリット
		2-3-1.ライフサイクル全体の視点に基づく発注者の立場の重要性
		2-3-2. 建築生産プロセスにおける活用の発注者メリット
		2-3-3.資産マネジメントにおける活用の発注者メリット
		-
3. BIM の標準ワークフローの活用に応じた留意事項・解説		3. BIM の標準ワークフローの活用に応じた留意事項・解説
3-1. 発注者の役割と、EIR・BEP について		3-1. EIR／BEP による受発注間での情報共有・相互理解
3-1-1.発注者の立場の重要性、ライフサイクルマネジメントへの取組を契機とする BIM の活用		3-1-1. EIR／BEP とは ～基本的な考え方とポイント～
3-1-2.発注者の具体的判断など		3-1-2. EIR／BEP で定めるべき共通項目の提示
3-1-3.EIR／BEP とその役割		-
3-1-4.適切な契約の必要性		(3-5.にて)
3-1-5.ライフサイクルコンサルティングの役割		(2-3.にて。発注者側の立場に立つコンサルタント等について記載予定)
3-2. 多様な関係者の協働のあり方		3-2. 関係者間での BIM データ共有に向けた共通データ環境(CDE)整備
3-2-1.円滑かつ迅速な協働を実現するために		3-2-1. 共通データ環境(CDE)とは ～基本的な考え方とポイント～
3-2-2.データ共有による協働のあり方について		3-2-2. BIM ワークフローに照らした CDE 環境を活用した情報管理の考え方
3-2-3.コスト管理の重要性と BIM の活用		-
3-3. 設計～施工段階で連携し BIM を活用する手法について		(各章にて振り分け)
3-3-1. 設計～施工段階で連携し BIM を活用する場合の主な課題		(1-2-1.にて)
3-3-2. より効率的に「設計～施工段階で連携し BIM を活用する」手法		(3-4.にて)
3-3-3. 施工技術コンサルティングと BIM 活用		(1-2-2.にて)
3-3-4. 施工のフロントローディングと BIM 活用		(1-2-2.にて)

【第 2 版からの変更方針】
変更①：第 2 版の踏襲・時点更新
変更②：第 2 版 3-6 残された課題の対応
変更③：社会課題や国際規格への整合など新しい視点

第2版目次構成		第3版目次構成(素案)
-		3-3. BIM における詳細度
-		3-3-1. 「詳細度」とは ～基本的な考え方とポイント～
-		3-3-2. 「詳細度」を用いて情報共有を円滑化する手法の例示
3-4. 維持管理・運用段階で BIM を活用する手法について		-
3-4-1. 維持管理・運用段階での BIM 活用の目的について		(3-1-2.にて。発注者側の求めに応じて EIR／BEP にて位置付けることを記載予定)
3-4-2. 維持管理・運用 BIM の作成と活用方法について		-
3-4-3. 維持管理・運用段階への BIM データ受渡し		-
-		3-4. BIM を用いた成果品に係る留意事項
-		3-4-1. BIM を用いた成果品とは ～基本的な考え方とポイント～
-		3-4-2. 法適合確認や従来の成果物と BIM モデルとの関係整理
3-5. デジタル情報の受渡しなどに関する留意事項について		-
3-5-1. 情報の管理方法の仕分け		-
3-5-2. データの詳細度の管理		-
3-5-3. 建築物をつくるためのデータの詳細度		(3-3.にて)
3-5-4. 建築物を使うためのデータの形状と情報の詳細度		-
3-5-5. 情報管理		3-5. BIM データに係る権利や責任区分の留意事項
3-5-6. データ管理		3-5-1. BIM データに係る権利や責任区分の検討 ～基本的な考え方とポイント～
-		3-5-2. BIM データに係る権利の留意事項
3-6. 今後の検討課題 (→5 まとめ)		3-5-3. BIM データにおける責任区分の留意事項
-		3-6. BIM プロジェクトを推進するプレイヤーと役割の関係性
-		3-6-1. BIM の活用に必要な役割の整理 ～基本的な考え方とポイント～
-		3-6-2. プロジェクトベースでみた職能や役割の関係整理
4. パターン別ワークフローについて		—
4-1. 設計～施工段階で連携し、BIM を活用する		(→「別添資料」に送る)
4-2. 設計～施工～維持管理・運用段階で連携し、BIM を活用する		
4-3. 維持管理・運用段階で BIM を活用する		
4-4. パターン別 参考資料		
-		4. まとめ (今後の展開について) (現 1-6-3 他)
-		・BIM データ審査に向けて ・LCA 連携に向けて ・維持管理・運用 BIM 連携 ・国交省DX (Pleateau、不動産IDとの連携) の進捗状況 ・その他(中小事業者による BIM プロジェクトの推進など)
5. 参考資料		5. 参考資料
5-1. 建築 BIM 活用に向けた市場環境の整備の推進		5-1. 建築 BIM 活用に向けた市場環境の整備の推進
5-2. BIM と国際標準		(1-1-2.にて)
-		5-2. 関係団体等作成の書籍・ガイドライン リンク集
巻末資料 建築 BIM 推進会議、建築 BIM 環境整備部会について		巻末資料 建築 BIM 推進会議、建築 BIM 環境整備部会について
-		<別添資料> 具体的・詳細な内容は、別添資料に掲載する パターン別ワークフロー(参考資料)